



昭和南海地震の当時、土佐市宇佐町に住んでいた人の体験談に基づく話です。

とにかく凄（す）い揺れでした。前の空き地へ一斉に飛び出しましたが、身動きが取れません。家族全員が身体を支え合って、必死に耐えて地震をやり過ごしました。やがて激しい揺れも治まり、私たちは家へ入りホッとしたのも束の間、下の弟が突然「直ぐに津波が来る。早く逃げんと大変なことになる!」と、私たちに避難を促（うなが）しました。母も私も津波への危機意識は全くなく、「えっ、なんで?」と疑心暗鬼（ぎしんあんき）の状態でしたが、弟は委細（いさい）構わず行李（こうり）を持って来て、「早く、この中へ大事な物を入れて」と急かします。「お母ちゃん、何を入れようかね」母も私もたんすの前でただオロオロするばかりでした。「早よう家を出ないかん」必死の弟に急かされて、結局、着の身着のままで家を後にしました。

近くの山への避難は、弟の機転で私たちが一番でした。その後、近所の人たちも続々と避難して来ました。皆、大慌（おほ）てで私たち同様、着の身着のままです。余程慌てたらしく、素足の人、左右の履物（はきもの）が違う人、と混乱していました。特に驚きましたのは、最後の最後に避難して来た人たちのズボンや着物、モンペの裾部分が一樣に海水に濡れていました。聞くと「津波に追いかけられた」とのことでした。まさに間一髪のところ

で、津波の来襲（らいしゅう）から逃れた人たちでした。

背景

昭和21年（1946）南海地震後に、逃げ遅れたため津波に襲われて亡くなった人が多数いましたが、地震後に「早く逃げんと大変なことになる」という弟の言葉に従ったために、津波被害を免れた家族もありました。高知市春野町の仁西郵便局では、昭和南海地震の体験を風化させまいと、地域の人々から体験談を聞いて、とりまとめています。この話は、当時21歳だった女性の証言をもとにしています。

アクセス 震災復興記念碑

- 宇佐漁協前
- 土佐市宇佐町宇佐
- 緯度経度 北緯33度27分01秒，東経133度26分33秒

